

ファクトシート：日・ザンビア首脳会談

2025年2月6日

石破茂日本国内閣総理大臣の招待により、ザンビア共和国大統領ハカインデ・ヒチレマ閣下は、2025年2月3日から7日まで、実務訪問賓客として日本を訪問中である。

本ファクトシートは、日本とザンビア共和国が自由、民主主義及び法の支配といった基本的な価値・原則を共有する、互いにとって重要なパートナーであることを確認し、両国が外交関係樹立60周年を迎えた2024年までの協力・友好関係に基づく実績及び更なる二国間協力の計画についてまとめたものである。

両首脳は、様々な分野での更なる協力に向けた生産的な議論を継続するため、二国間政策対話の枠組みを立ち上げることで一致した。

二国間関係

1. 経済関係

両首脳は、日本とザンビアとの経済関係を強化する以下の成果を含むこれまでの協力を歓迎した。

- (1) 「投資の促進及び保護に関する日本国とザンビア共和国との間の協定」の署名
- (2) 2月6日に東京で開催された「日・ザンビア・ビジネスフォーラム」の成功
- (3) 日本企業の参画の可能性を視野に入れ、エネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC)によるザンビア全土を対象とした衛星画像解析を含む資源探査協力の加速

2. 開発協力

ザンビア側は、日本の政府開発援助(ODA)及び以下の新規事業の承認を含む世界銀行等の国際機関を通じた支援に深い感謝の意を表明した。

- (1) 鉱業
 - ・国連薬物・犯罪事務所(UNODC)に対する日本の拠出金により実施される「南部アフリカ開発共同体(SADC)における責任ある鉱物サプライチェーンを促進するための「法の支配」戦略」
 - ・国連貿易開発会議(UNCTAD)に対する日本の拠出金により実施される「エネルギー移行のための重要鉱物(CETMs):南部アフリカにおける付加価値向上と多様化能力の迅速評価」

- ・世界銀行が実施する強靱で包摂的なサプライチェーン強化（RISE）に向けたパートナーシップの下、近々完成するザンビアのカントリー・ロードマップ

（２）農業

- ・国連食糧農業機関（FAO）への日本の任意拠出金により実施される「エルニーニョによる干ばつ被害を受けたザンビア小規模農家のレジリエンスの強化と対応」
- ・世界食糧計画（WFP）への日本の任意拠出金により実施される「ザンビアにおける生産性の高い持続可能な農業のための気候変動に配慮した小規模農家向けスマート農業」

（３）避難民への支援

- ・国連開発計画（UNDP）と連携して実施される無償資金協力「避難民の定住地及びホストコミュニティにおける基礎インフラ整備計画」

（４）インフラ整備

- ・国際協力機構（JICA）実施の技術協力の一環である「ナカラ港及び国際回廊促進プロジェクト」
- ・JICA 実施の技術協力の一環である「ルサカ都市圏総合開発計画策定プロジェクト」

３．グローバルヘルス

- （１）両首脳は、ザンビア大学（UNZA）獣医学部が、４０年以上にわたる北海道大学との協力関係のもと、日本とザンビアの協力・友好関係の象徴であるとともに、人獣共通感染症対策の拠点及び南部アフリカ地域における中核的研究拠点としての役割を果たしていることを認識した。
- （２）日本側は、ザンビア大学獣医学部への継続的な支援を検討する意思を表明した。両首脳は、両国の産官学の連携を通じて、グローバルヘルスのために共に取り組んでいく考えを共有した。

地域・国際情勢

１．法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序

- （１）両首脳は、２０２５年８月に開催される第９回アフリカ開発会議（TICAD9）に向けて、「法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化」のための協力を推進することを再確認した。
- （２）両首脳は、ルールに基づく透明で公正な開発金融が重要であるとの認識を共有し、すべての債権国が国際ルール及び基準を遵守することの重要性を強調した。
- （３）両首脳は、ロシアによるウクライナ侵略並びに北朝鮮の核・ミサイル開発

及び拉致問題を含む、地域・国際課題に対処すべく共に取り組むことで一致した。

2. 国連における協力

両首脳は、国連が効果的で、説明責任を果たし、かつ包摂的なものとなることを確保する観点から、国連改革に向けたイニシアティブ及び「未来のための約束」実施の必要性を強調した。両首脳は、国連総会の役割を強化することの重要性並びに常任理事国及び非常任理事国双方の議席拡大を含む国連安保理改革に向けて緊密に協力することの重要性について一致した。

(了)